

事業報告書 (令和 2 年度)

事業名 高校生対象TPOに応じたメイク・フェイスクエアプロジェクト

団体名 #おかやまJKnote 担当者名 小林知映里

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

1. メイクフェイスクエア講習会

日時 2020年8月20日

場所 奉還町SGSG

参加対象者 高校生

内容 メイクやフェイスクエアの知識・技術を学ぶワークショップ POLA ピオーネの方
5名による個別診断体験会

参加者 20名

1. トークセッション

日時 2020年12月20日 14時～16時

場所 イコットニコット2階ワンダーウォール

参加対象者 高校生・保護者・学校の先生

内容 トークセッション なぜメイクは校則で禁止されるのか

POLA ピオーネによる肌診断「自分の肌個性を知って欲しいフェイスクエアの方法を学ぼう」

参加者 23名

2. 啓発チラシの作成・配布

2021年2月、協働団体であるPOLA ピオーネの監修の下、SDGsを意識した啓発チラシを作成、岡山市内10の高校の生徒向けに配布をした

配布枚数 8500枚

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

女性にとって特に働く場においてメイクは身だしなみのひとつと言われ、職場で化粧をしない（できない）女性に対する「コスメハラスメント」という言葉もあります。しかし校則でメイク禁止の高校が多い中、社会に出るにあたってTPOに応じたメイクを習得する機会が無い上に、自己流の間違った知識により肌に悪影響を及ぼすリスクもあります。「メイク禁止校則」と「社会に出たらメイクはマナー」という矛盾を切り口に、当事者である高校生、教育関係者、保護者、メイクのプロ、女性起業家が登壇し、キャリア教育の観点で、女性とメイク・フェイスクエアをテーマにトークセッションを行いました。このことは、従来の大人世代の価値観を一方的に押し付けるのではなく、また、高校生世代の思いだけを大

人に訴えるのではなく、双方で何が課題で、その解決方法は何かを対話による方法で実践しました。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

高校生が多様な主体を巻き込みながら主体的に取り組むことにより、TPOに応じたメイク技術がキャリア学習のひとつであることに気づきました。特に、このイベントをきっかけに、参加者のひとりの高校生が、学校で行う探究学習において「ジェンダーとメイク」を課題に設定することにしたとの報告を聞き、私たちの問題提起が拡がってきたことを感じました。

4. 今後の課題と展望

コロナ禍ということもあり、当初予定していた、ワークショップの定期開催がかなわず、自分たちの思いを広く届けることができませんでした。そのことを補うために啓発チラシを作成し、岡山市内の高校に配布することにしました。また、3月21日にイオンモールで行うイベントに、メイクフェイスクアに関連するブースを設けることにしました。